

特集
2

第44回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール
岩手県コンクール表彰式・全国表彰伝達式



第44回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール岩手県コンクール表彰式ならびに全国表彰伝達式が1月29日、ホテルメトロポリタン本館（盛岡市）で入賞者とその家族、JA関係者など59人が参加し行われました。このコンクールは、小中学生の皆さんに稲作について学びを深めてもらいごはん食の重要性を理解してもらうことを目的に実施しています。今回県コンクールには作文78点、図画198点の作品応募がありました。全国コンクールでは、当JA管内の出品作品より図画部門で優秀賞2点が選ばれました。今回の特集では、県コンクール表彰式・全国表彰伝達式の模様と上位入賞作品を紹介します。

全国コンクール 優秀賞
岩手県コンクール 岩手県知事賞

「お米を流さないように・・・
はじめてのお米とぎ」



滝沢小学校3年 千葉 心遥



夏休みにママのお手伝いをして、お米を洗ったことを描きました。今度はおじいちゃんとおばあちゃんが田んぼでお米を作っているところを描きたいです。

全国コンクール 優秀賞
岩手県コンクール 岩手県教育長賞

「母の笑顔とちらし寿司」



興田中学校2年 及川 小春



お母さんが作ってくれるちらし寿司が大好きなので今回の作品テーマを選びました。ごはんという身近で大事なことを絵で表現することに、またチャレンジしたいと思います。

岩手県コンクール JA岩手県五連会長賞
「バケツ稲の観察」



興田中学校2年 佐藤 瑞実



バケツ稲の奥行きや立体感を意識して描き、褒められたのでうれしかったです。次回も、気持ちを含めた作品を描けるよう挑戦したいと思います。



入賞者は、前列左3人目から佐藤瑞実さん（興田中）、及川小春さん（興田中）、千葉心遥さん（滝沢小）、熊谷太志さん（花泉中）





岩手県コンクール 優秀賞

「ご飯と家族の食卓」



花泉中学校2年

熊谷 太志

おばあちゃんの炊き込みご飯がすごく大好きでその気持ちを作文にしました。今度は6人兄弟の僕たちにもおいしいご飯を作ってくれるお母さんのことを書きたいと思います。

僕の家族は、みんなお米が大好きだ。食卓にご飯がないと食べた気がしない。ほっかほかのご飯を食べると、体が温まり心が和むような感じがする。このように、お米は、空腹を満たすだけでなく、僕たちの心をも満たしていると分かる。お米は僕たちにとっての大切な役割を担っているのだ。

幼い頃から数えきれなくらいたくさんの美味しいうご飯を食べてきたが、その中でもとても印象に残っているご飯がある。それは、僕のおばあちゃんがつくってくれる炊き込みご飯だ。毎年、年末におばあちゃんの家に行くのだが、十二月三十一日は、家では、必ずおばあちゃんのお炊き込みご飯があり、そこで食べる炊き込みご飯は、とても絶品だ。僕は、炊き込みご飯をつくるおばあちゃんをみると手伝いたくなるが、おばあちゃんは、「一人でつくるのが、私のやり方なの。」と、いつも言う。

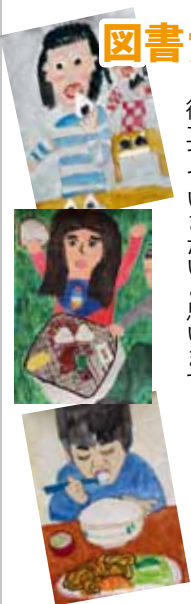
おばあちゃんがつくる炊き込みご飯で欠かせないものは、食材だ。どんな料理をつくる時も最初に必要な食材は、お米だ。炊き込みご飯の具は、お米に合わせている。ホタテの貝柱にタケノコ、にんじん、しいたけのこの4種の食材だ。まずは、買い出しに行く。買い出しについていくとおばあちゃんは必ずこう言う。「今日は、みんなが来たからいつもよりはりきるぞ。」と言い、買い出しを始める。しかし、おばあちゃんのこだわりで、いつもよりいい物を買

うという一心で、買い出しは、一軒では、終わらない。

二軒、三軒と次々にはしごして行く。買い出しだけでかなりの疲労だがおばあちゃん、まったく疲れをみせず、次々と準備をすませていく。いつものようにお米と水で炊くようにして、そこに具材を入れていく。そして最後に味付けだ。味付けは、しょうゆ、みりん、料理酒、砂糖などを入れて炊く。みんなでおいしく炊けますようにと願いをこめる。後は、待つだけ。準備だけで、とてつもない空腹で倒れそうだった。さらに、炊飯器からくる炊き込みご飯のおいしそうな匂いがさらに空腹をひどくさせる。そのとき、ピーと炊飯器から炊けた音が聞こえた。その時僕は、とてつもなく急いで炊飯器に走っていった。フタをあけると、とてつもなくいい匂いが鼻から入り、全身にいきわたった。僕は、ただただ食べたいたいっしんでしゃもじをとり炊き込みご飯を茶碗によそって一口目を食べた。なんとおいしいことだろう。そこから、もう無我夢中で食べ続けた。二口目、三口目もう、はしの勢いは、止まらなかつた。兄弟が食べ始めてからは、もう競争のようだった。二杯目、三杯目どんどんと食べ続け、気づいた時には五杯も食べていた。みんなと食卓を囲み楽しく会話をしながらのおいしいご飯を囲む食卓は、僕たち家族にとって楽しい思い出になったものだった。

僕たちは、「おいしいご飯を家族で囲む」ということに対して考えなおす時期がきている。なぜ、ここ

図書カードが子どもたちの学習に役立てられています



当JAでは、県コンクールと全国コンクールに先立ち独自にコンクールを開催し、応募作品数に応じて図書カードを贈呈しています。舞川小学校(一関)では、贈呈された図書カードを活用し、「かつどろずかん しぜんともだち」「てのひらずかん」を購入し学習に役立てています。

舞川小学校 近藤浩美 教諭

低学年用の生活科図鑑が学校にはなく、写真やイラストで分かりやすく書かれたものが欲しいと思っていました。いただいた図書カードを購入費用の一部に充て、それぞれ10冊を購入し、これからも1、2年生の学習に役立てていきたいと思っています。



まで手づくりの料理をつくるのか。買った方が早いのではないか。でも、今の僕には、分かる。食事は、ただ食べればよいというものではない。家族で食卓を囲んで話し、誰かが家族のために心をこめてつくった「ご飯」が一番なのだ。これからも家族で楽しい食卓を囲む時間を大切にしていきたい。